

「突哨山案内図」打ち合わせ報告

もりねっと北海道 清水

2012年10月31日、突哨山運営協議会のガイドマップ制作班（出羽、塩田、堀川、澤田、庄谷、山本、清水）で25年度に設置予定の案内図について、打ち合わせを行った。

検討内容は次の3点

文章の見直し、 地図の見直し、 その他確認事項

文章の見直し

現在の紹介文

引用 『突哨山（とっしょうざん）は古くはトツショ山と呼ばれ、アイヌ語のトゥツ・ソ Tuk-so（突き出る・ところ）が語源と考えられます。アイヌの人たちの生活の場であった突哨山は、明治の末期以降農場や林業のほか遠足やスキーなど様々な形で利用され、身近な自然「里山」として親しまれてきました。そして2000年（平成12年）にこの突哨山を保全するため、旭川市と比布町が協力して突哨山公園を取得しました。』

『この突哨山の美しい自然は、みんなの財産です。貴重な緑や足元の小さな命を大切にしましょう。』『山火事注意』

修正案

突哨山（とっしょうざん）はアイヌ語の「トゥツ・ソ」（突き出た・ところ）が語源とされ、上川盆地を見渡すチャシ（とりで）もありました。「突き出た見張り台」という意味と音とを重ね、「突哨」の地名になったと考えられます。

明治以降は地元農家が薪採取や放牧をする「里山」として活用され、遠足やスキーでも親しまれました。その後、ゴルフ場計画が持ち上がりましたが、市民運動の成果によって、2000年（平成12年）に旭川市と比布町が取得して未永く保全されることになりました。

・以下、案内図の左下に記載する。

豊かな自然は、みんなの財産です。

山菜採りや昆虫採集、ペット連れ、車両の乗り入れは禁止されています。

修正案

知里真志保著「上川アイヌ語地名解」を出典に、以下のような修正案（赤字部分）が出され、協議会で、こちらの文章に決定しました。

『突哨山（とっしょうざん）はアイヌ語で「トゥッソ Tusso」と言い、Tuk・so（突き出た・壁）が語源と考えられます。上川盆地を見渡すチャシ（とりで）もあったことから、「突き出た見張り台」という意味と音とを重ね、「突哨」の地名になったと考えられます。

明治以降は地元農家が薪採取や放牧をする「里山」として活用され、遠足やスキーでも親しまれました。その後、ゴルフ場計画が持ち上がりましたが、市民運動の成果によって、2000年（平成12年）に旭川市と比布町が取得して未永く保全されることになりました。』

・以下、案内図の左下に記載する。

豊かな自然は、みんなの財産です。

山菜採りや昆虫採集、ペット連れ、車両の乗り入れは禁止されています。

地図の見直し

- ・プレートのサイズ：900×900mm。
- ・設置場所は3ヵ所なので「現在位置」の表記がそれぞれ異なる。
- ・ガイドマップ第三版の地図データをメインに修正を加える。
 - a.文章を修正。
 - b.谷渡りルート、扇の沢ルート、びびの路を追加。
入山口名とルート名を記載する予定。「石狩川」の表記もする。
各番号は乗せない。
 - c.「旭川市・比布町」の表記は連名？（詳しくは次ページ）
 - d.文章を修正。「豊かな自然は～～禁止されています。」
 - e.禁止事項を一目見てわかるようなイラストを入れる（堀川真さんデザイン）
 - f.比布町のみ、「ふるさと納税」によって建てられた旨のプレートを追加予定。



その他、確認事項

- 旭川市：2基、比布町：1基
- 地図上cの連名の順番について。
旭川市は「旭川市・比布町」の表記にする。
比布町は「比布町・旭川市」の表記にする。
- 設置場所について。
突哨山口は情報ボックス横の既存の場所に設置。
びびの路は、村上山公園口の情報ボックス横に設置予定。
カタクリ広場口は、カタクリ広場内に設置するかどうか検討中。
- eのイラストについて(案) 堀川真さんデザイン。

